

エネルギー・環境研究分野

X線スペクトロスコーピー利用研究会では、XAFS法および蛍光X線法における種々の実験手法の利用普及のために計3回研究会が開催され、さらに期間中に時分割XAFSなどの手法では目覚ましい発展がなされた。これら活動は実験ステーションの拡充にもつながっている。また、新たに産業利用のためのXAFS専用ビームラインが建設、利用開始されている。

表界面・薄膜ナノ構造研究会では、高輝度X線回折や散乱を利用した表面物質構造科学という新分野創生と新規ユーザー開拓をめざし、計3回研究会が開催された。学産官を越えた新しい新規利用者が有機的にリンクされ、実験成果の情報・意見交換が活性化された。

結晶化学研究会では、放射光利用によるX線結晶回折実験における、高輝度で高エネルギー分解能を活かした先端物質研究の推進と利用研究者の拡大を図るべく、計2回の研究会と関連学会シンポジウムが開催された。パワーユーザーを中心に新規利用者の拡大が達成され、更に微小単結晶構造解析のための先端の実験ステーションの整備協力が行われた。

前述の3研究会では、分野内での連携のみならず、分野をまたがる活動についても、研究情報交換や研究成果に関する個別の討論を通して活発に行われており、活動全体を総合的に評価すると、十分に研究会発足当初の目標を達成していると思われる。今後の研究会活動における提言としては、これら研究会に共通することであるが、共同研究組織を通じた大型外部競争的資金獲得を意識した活動の活発化が望まれよう。また、学産官協力の顕著な共同研究成果を強力に社会アピールすることにより、より一層の施設改善のサポートが得られやすくなるものと思われる。